

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2021年6月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで59年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2022年6月初旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース (<https://houkon.jp/galaxy-database/>)」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510
kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>

放送批評懇談会



2021年6月度ギャラクシー賞月間賞

NNNドキュメント' 21「定点から問い続ける～雲仙普賢岳 大火砕流 30年～」

6月6日放送 24:55～25:25 長崎国際テレビ

報道陣、地元消防団など合計43人もの犠牲者を出した雲仙普賢岳の大火砕流事故から30年。地元住民が報道陣に対して持ち続けてきた厳しい批判の感情を乗り越えて、そのシンボリックな場所「定点」を事故の教訓を継承する地として蘇らせる地元の動きを伝える。メディアが関わった大事故の背景にある複雑で深刻な問題を掘り起こした。

NHKスペシャル「若者たちに死を選ばせない」

6月13日放送 21:00～21:50 日本放送協会

警察の30万件以上の自殺統計原票の詳細な分析と、個々の自殺についての丁寧な取材を通して、コロナ禍でますます増えつつある若者たちの自殺について多角的に考察。「大丈夫？と問われたら大丈夫としか答えられない」、「休もう」と言ってほしいなど示唆に富んでいた。「心の着地点がない」という遺族の言葉が悲しい。

「大豆田とわ子と三人の元夫」

4月13日～6月15日放送 21:00～21:54 関西テレビ放送 カズモ

恋愛ドラマでありつつ、最後は恋愛を超えて普通の日常を肯定する結末へ持っていく手並みの鮮やかさが光る。かつて 트렌ディドラマの書き手でもあった坂元裕二の成熟を示す見事な脚本。その世界を体現する3人の元夫役の松田龍平、岡田将生、角田晃広やかごめ役の市川実日子なども良かったが、やはり主演の松たか子が素晴らしかった。

「あちこちオードリー」

6月2、9、16日放送 23:06～23:55 テレビ東京

「番組MC」というテレビならではの職業。いつしか芸人の仕事のようになったが、本来「逸脱したい」芸人の性とは相性が悪い。そんな葛藤をロンブー淳が率直に語り、司会の若林も共鳴していく。「反省ノートSP」も含め、それぞれの立場の芸人が抱えるリアルな悩みや心情をあぶり出すとともに、一級の「テレビ論」にもなっていた。

★詳細は月刊誌「GALAC」2021年9月号に掲載します